



Ivanti ホワイトペーパー

Ivanti IT Asset Management (ITAM) Suite

Ivanti IT Asset Management Suite 戦略の階層化アプローチ



目次

IT 資産管理の基本原則.....	3
取得とインポート	3
検出とインベントリ	3
文書化、制御、照合.....	4
監査の将来像	4
ライセンスの過剰購入	4
ITAM の利点トップ 10.....	5
まとめ：追跡と制御による IT 資産の最適化	5



IT 資産管理の基本原則

ほとんどの人は、ソフトウェア資産を適切に管理することの価値を理解しています。では、ハードウェア資産管理についてはどうでしょうか。ラップトップ、デスクトップ、プリンタ、その他の消耗品といった組織内のハードウェア資産を追跡することにコスト削減を見いだすことができるでしょうか。ハードウェア資産管理は、Ivanti IT Asset Management Suite powered by Landesk (ITAM) の適用範囲を広げると同時に、企業のコストとリソースを大幅に削減することにより、よい結果をもたらします。

プロセス主導の IT 資産管理 (ITAM) プログラムを使用して、所有する IT 資産とその使用状況を分析すれば、ソフトウェア/ハードウェアのベンダーが要求する情報を掌握し、監査時の負担を軽減できます。さらに、十分に活用していないソフトウェアライセンスを回収して再配分し、必要なものを必要とするときのみ購入し、より有利な契約をベンダーと結ぶようにすれば、コストの削減につながります。

ITAM は、内部プロセスと資産管理者による監視を自動システムと結びつけて、全社規模で本物の価値を推進する一連の管理分野です。有用であるために、ITAM は継続的で繰返し可能な手順を必要とします。この手順は企業のあらゆる領域で使用され、製品のバージョンと使用条件を明確にし、検証できる記録で実際の所有権を示し、どのようなライセンス契約のもとで誰が何を使用しているかを明らかにします。

ITAM は、以下に示す 5 つの管理分野に基づいて、ハードウェア/ソフトウェア資産とそのすべての関連情報の追跡を実現し、未使用のソフトウェアライセンスを排除し、ライセンス節約の迅速な推進と監査へ向けた準備を可能にします。

1. **ベンダーとの接続:** 新規資産を取得した瞬間から、B2B コネクタを使用して詳細な資産情報をベンダーから直接取得します。
2. **インテリジェントなプロセスの活用:** 複数の検出プロセスを使用してデバイスとアプリケーションの正確なインベントリを作成します。使用していないソフトウェアを使用状況のデータに基づいて特定し、IT の浪費を減らします。
3. **データの正規化:** 正規化によって取得/検出済みのデータを凝縮し、使用しているハードウェア/ソフトウェアとライセンス資格の明確な全体像を描きます。
4. **運営コストの回収:** 使用していないソフトウェアの再利用プロセスを自動化することで、調整の準備、コンプライアンスの順守、浪費の回避を図ります。
5. **安心感の付与:** 場所とデバイスを問わずに表示できる、多くの対象者に向けたレポートにより、どのようなときでも監査の合格を確信できます。

これらのコアプラクティスにより、ITAM は、監査時における自社防衛と効果的な将来計画の作成に必要な検証を提供します。これは、1) 一貫性のある長期間のデータ収集の実現、2) 経時的な変更履歴の提供、3) 任意の時点での資産資格の制御の実証によって可能になります。

ITAM を機能させることで、組織でのソフトウェア/ハードウェア資産の確認および管理方法が大きく変わるという恩恵が得られます。ITAM では、ソフトウェアのインストール要求は要求/承認のプロセスをたどり、このプロセスでは、管理者による適切な追跡と監視が可能になるように、要求者の役割と利用可能な資格が考慮されます。承認済みタイトルの標準カタログで ITAM の実践を補足することにより、アクティブなリソースを追跡、保守、計画するための構造とコンテキストが構築されます。このプロセス主導の規律あるアプローチにより、コスト管理とチャージバックが可能になります。さらに、ITAM はソフトウェア監視の域を超えて、IT 環境全体にわたってすべての資産を追跡、保守します。

ハードウェアの購入時に保証データを完全に可視化することが重要です。これにより、バッテリー、プリンタのインクやトナー、その他の消耗品などの資産に関するリコール情報を管理できます。このプロセスは、ソフトウェア/ハードウェア資産の要求とインストールが予算に与える影響を内部消費者が理解するのに役立ちます。

ITAM の恩恵は、外部監査の苦勞をなくすことにとどまりません。例えば、内部監査を定期的実施し、ソフトウェア/ハードウェアの割り当てが組織に利益をもたらしているか、ふさわしいユーザーに正しい資産を割り当てているか、適切なベンダーと連携しているかなどについて確認できます。ハードウェア統計を提供するプロセスがなければ、ライセンス契約や数量割引、監査プロセスの詳細について交渉する決め手を欠くことになります。

取得とインポート

ソフトウェア/ハードウェア資産に関する主要な情報を集めてインポートし、構造化された統合資産リポジトリを作成します。このリポジトリと他の ITAM コンポーネントを統合することで、チャージバック、潜在的なアップグレードパス、割り当て可能なライセンスの数を推定できます。これは、明確にすべき最も重要なステージです。というのも、正しく実践すれば、残りのライフサイクルがスムーズに進行するからです。

ソフトウェア資産を発注すると、再販業者のデータ統合機能が、発注番号やライセンスごとの関連コストなどの購入データをダウンロードして入力します。その後、ベンダーのデータ統合機能が、ライセンス数量情報をダウンロードして入力します。ライセンスが自動的に再計算され、他のユーザーが利用できるライセンスの数が示されます。IT 資産の最適化プロセスは、ライセンスをユーザーやデバイスに結びつけます。

プリンタなどのハードウェア資産を発注すると、公的なデータ統合機能が、再販業者のデータ統合機能と同様にデータを収集し、その購入データをダウンロードします。メーカーのデータ統合機能は、保証情報とページあたりのコストに関する情報、そのプリンタで印刷可能な総ページ数を入力します。

資産がすでに存在し、Microsoft System Center によってスキャンされている場合は、その記録が追加され、他のすべてのデータ統合機能がもたらすデータで引き続き強化されるため、将来のレポート作成に備えてその資産の全体像を明らかにすることができます。

検出とインベントリ

ソフトウェアベンダーとライセンス契約について再交渉する場合でも、未使用または十分に活用していないソフトウェア/ハードウェアを再割り当てする場合でも、最初にしなければならないのは、ソフトウェア/ハードウェアの使用場所と使用状況を把握し、インベントリを作成することです。ハードウェア/ソフトウェアを追跡する内部プロセスと自動化された ITAM 検出エンジンを併用すると、資産の場所を特定して使用状況を分析し、その情報を資格と照合できます。この情報は、構造化された資産リポジトリに保管されています。全社規模の検出は、資格ポリシー、回収プロセス、購入の推進に必要な情報を提供し、監査の域をはるかに超えて組織のために役立ちます。

ユーザーに資産を割り当てたら、それを追跡して何のライセンスが使用されているのか確認できます。多くの場合、コンプライアンス順守のためにさまざまなシナリオがアルゴリズムによって実行されます。この種の情報は、ライセンス契約やエンタープライズライセンス契約について再交渉するときにも役立ちます。何の資産を所有し、どの資産を使用しているのか明らかになるため、多額のコストを節約できる可能性があります。



この情報は、ハードウェア資産の使用状況を知るうえでも重要です。プリンタのような資産の場合、IT 資産の最適化プロセスを実行してこの資産の場所を特定し、規則に基づいてこの資産を適切に命名または特定できます。データマッピングは、資産の所有者と所在を把握する手段となります。有効な存続期間を通じて資産を管理することで、高度なインテリジェントデータを獲得し、資産管理を強化して付随するリスクとコストを削減できます。

文書化、制御、照合

組織に入るソフトウェアと組織から出るソフトウェアを文書化と照合によって制御するまでは、監査で指摘される可能性が残ります。集中管理は、規律を持ってソフトウェアとハードウェアを一貫して明確に割り当てていることを証明します。

ハードウェアとは異なり、一般にソフトウェアは廃棄されません。ソフトウェアでは、アップグレードか回収/リサイクルの形態をとります。アップグレードライセンスの追跡は、しばしば心配の種となります。バンドル、スイート、ファミリーなど、さまざまな購入特典が用意されており、効果的なライセンスの利用法を知ることが困難だからです。ダウングレード権についても考慮する必要があります。IT 資産の最適化プロセスは、未使用または十分に活用していないソフトウェアを回収して、他の要求者に再配分するために必要な情報を提供します。

IT 資産の最適化プロセスは、「生年月日」に関する情報と、あらかじめ決められた期間や保証期限に基づいて、資産を廃棄するタイミングを特定できるようにします。データ統合機能を使用して、ルーター、スイッチ、ハブ、IP 電話などの SNMP 検出デバイスの購入データを収集している場合は、これらの資産を廃棄するタイミングを計算して、コスト効率が最も高い最良のテクノロジーを確保できます。

監査の将来像

組織の多くがソフトウェア監査に不安を募らせています。Forrester Research社は、組織は「文書処理からサプライチェーンマネジメントにいたる多様な業務をこなすためにアプリケーションを世界中で使用しており、それらアプリケーションの供給元企業によるソフトウェア監査の対象になることに不安を募らせている」と伝えています¹。ソフトウェア企業は、ライセンスを受けていないソフトウェアによる収益損失の回収に乗り出しており、その行動には政府の著作権法という後ろ盾があります。この著作権法が認める厳しい罰金は、ライセンスを受けていないソフトウェアの使用で被る実際の損害額を大幅に上回っています²。特許侵害から利益を得ようとしているのはソフトウェアベンダーだけではありません。不満を抱いている組織の内部関係者には、ビジネスソフトウェアアライアンス(BSA)を通じてオンラインで違反の申し立てをする動機があります。というのも、BSAは、ライセンス違反の適格な報告に最大で100万ドルの報奨金を支払うからです³。

違反による罰金やライセンス料の増加は、組織に数百万ドルのコストを発生させることがあります。ソフトウェア監査を受けた組織が抱える問題は金銭面にとどまりません。現地監査は数カ月にもわたる作業環境の混乱を招くおそれがあり、ソフトウェアプロバイダが要求する情報の収集という面倒な仕事のために、社内の人材が重要なプロジェクトから離れることもあります。収集する情報は、ソフトウェアの請求書から買収した会社由来する文書まで多岐にわたります。現在のライセンス契約の言い回しが誤解や論争の原因となり、弁護士料の増大を招くこともあります。さらに、メディアの存在があります。コンプライアンス違反が意図的でない場合でも、組織がソフトウェアの著作権を侵害したことをマスコミが大々的に報道し、組織の評判とブランドに傷が付くおそれがあります。

所有しているソフトウェアとその使用場所、使用状況を明確に示すことができない場合は、ソフトウェア監査に通らない可能性が高くなります。さらに、今日のライセンス契約の複雑性により、故意でないソフトウェアの使用違反がたびたび起きています。数年前であれば、特定した資産を総計して購入品と照合すれば、監査人を満足させるのに十分でした。しかし、今日では、1つのライセンス契約に多くの資格が含まれていることがあります。その一例が Microsoft Developer Network のライセンスです。MSDN では、開発とテストの目的で使用するコンピュータであれば、コンピュータの数に制限を設けずに、1つのライセンスで多数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。この種のライセンス契約は、ソフトウェア資産の照合を担当するソフトウェア資産管理者に多くの複雑な問題を突きつけています。

ライセンスの過剰購入

コンプライアンス違反に対する組織の自衛策の1つが、ソフトウェアライセンスの過剰購入です。所有しているソフトウェアを把握していない場合は、罰金や料金を徴収されるよりはライセンスを過剰に購入したほうがよいと思われかもしれません。こうした危機主導のアプローチで監査に備えれば、罰金は避けられるかもしれません。しかし、今後の監査を乗り切るために費やす時間とコストの削減にはまったく寄与しません。

その点に意識が及ぶことなく、組織の多くはソフトウェアライセンスを過剰購入しているように思われます。実際に、企業の78%は適切なライセンスを所有しているか確信を持っていません⁴。この事実は、IT部門が未使用のライセンスを回収して支出を減らす余地があることを示しています。

ソフトウェア管理は複雑であるため、組織の多くは、ソフトウェア監査が厳しい罰金を課した後になって初めて何らかのソフトウェア管理戦略を実施します。多くの企業にとって、ソフトウェア管理とは、Microsoft WindowsなどのOSに付属している基本的なシステムツールを使用して、インストールされているソフトウェアの詳細を明らかにすることを意味します。しかし、インストール済みのソフトウェアとライセンス契約で許容されている数量を比較するプロセスがなければ、監査には通らず、十分に活用していないライセンスを回収して割り当てることもできません。さらに言えば、ニーズに合わせてソフトウェアを購入することも、コスト効率に優れた契約をソフトウェアベンダーと交わすこともできません。監査に向けた事前の準備を可能にし、ソフトウェア資産を掌握して多額のコストを回収できるITAMプログラムが必要です。



ITAM の利点トップ 10

1. 未使用のソフトウェアライセンスを回収して無駄な支出を抑制
2. 保証データのインポート、追跡とハードウェア資産の回収を促進
3. データを意思決定の情報に転換
4. 全社規模と部門レベルのいずれの契約もサポート
5. 内部分析、チャージバック、財務的な説明責任の向上
6. 法的/財務/風評リスクの軽減
7. 効率性の向上と IT サポート/保守コストの削減
8. 予算計画とリソース配分の支援
9. 企業の合併買収の効率化
10. すべての資産でライフサイクルデータの完全な可視化を実現

詳細については、Contact-Japan@Ivanti.com 宛てにメールでお問い合わせください。または、以下の番号に電話して Ivanti の製品担当者とお話してください。

- 米国の電話番号: 1.800.982.2130
- ヨーロッパの電話番号: +44 (0) 1344 442100
- アジア太平洋地域の電話番号: 1300 661 871
- 日本の電話番号: +81 (3) 5226 5960

各国の営業拠点および連絡先については、www.Ivanti.co.jp をご覧ください。

まとめ: 追跡と制御による IT 資産の最適化

Ivanti IT Asset Management Suite powered by Landesk を使用すると、購入時からライフサイクル全体にわたり、あらゆる IT 資産の全体像が明らかになります。所有する資産の内容、場所、パフォーマンスを知ることでビジネス意思決定が向上します。Ivanti は、それぞれの資産を追跡、制御して監査のリスクを軽減できるように支援し、IT/ビジネス部門の管理者に明確な情報をタイムリーに提供します。さらに、資産使用の効率化、過剰購入の排除、ベンダーとの的確な契約に向けた交渉を可能にすることにより、コストを削減します。

- 1 George Lawrie, 「Defuse Software License Time Bombs With Software Asset Management」, Forrester Research, 2010 年 7 月 9 日
- 2 Software & Information Industry Association, 「Anti-Piracy FAQ, 2009」
http://siii.net/index.php?option=com_content&view=article&id=387:piracy-faq&catid=8:anti-piracyoverview&Itemid=420
- 3 Business Software Alliance, <https://reporting.bsa.org/usa/home.aspx>
- 4 ITAM レビュー, 「The real cost of a chaotic enterprise application estate」
<http://www.itassetmanagement.net/2013/10/14/rimo3-infographic/>